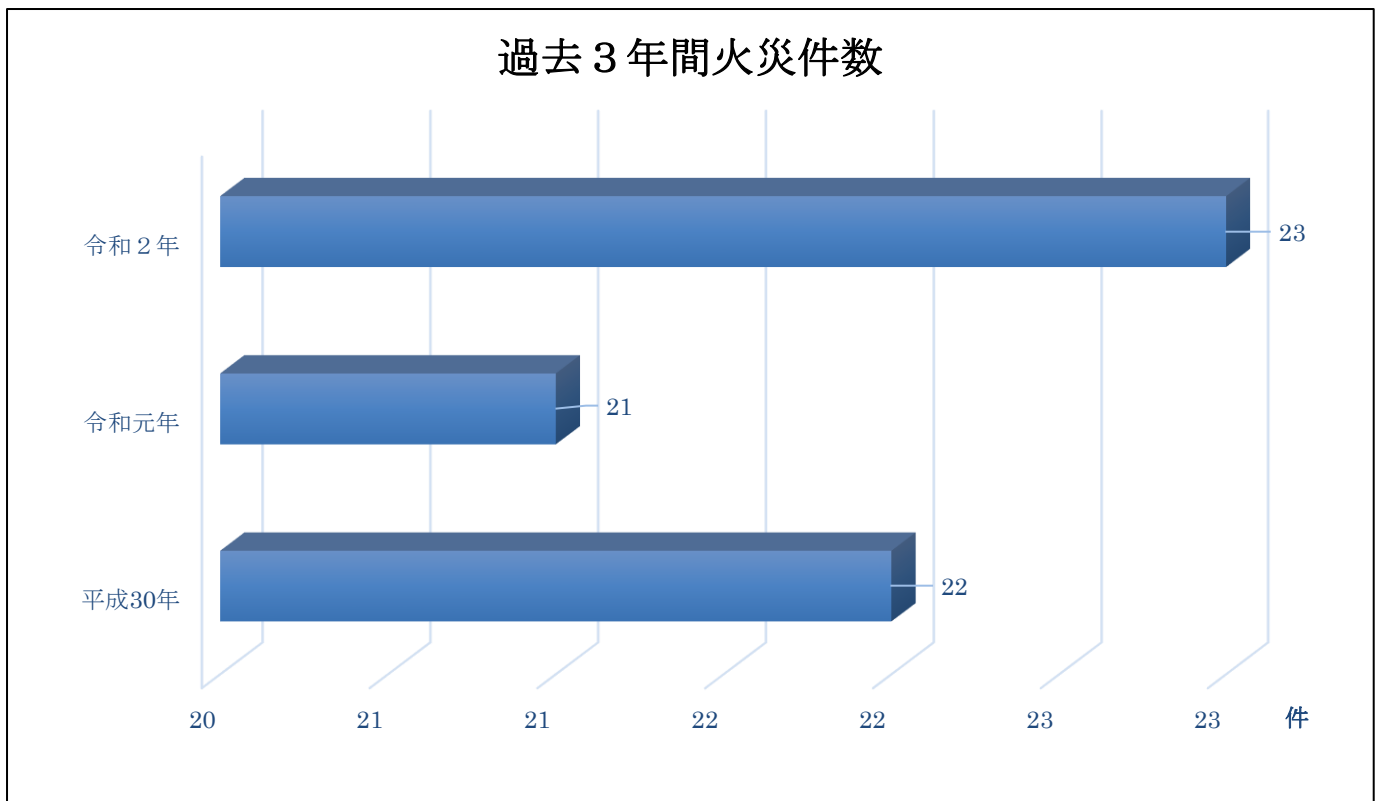


令和2年災害概況について

1 火災

「火災」とは、人の意図に反して発生し若しくは拡大し、又は放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するために消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするもの、又は人の意図に反して発生し若しくは拡大した爆発現象をいう。

過去3年間におけるかすみがうら市内の火災件数は下表の通りである。



(1) 出火件数

令和2年中の出火件数は23件で、前年に比較して2件の増である。

令和3年は本日までに6件の火災が発生している。

ア 火災種別

火災種別ごとの件数は、その他の火災（枯草、ゴミ、衣服等）が最も多く10件と高い比率を占めている。次いで建物火災が9件、車両火災4件となっている。

イ 四季別

出火件数を四季別にみると第1四半期（1月～3月）11件、第2四半期（4月～6月）5件、第3四半期（7月～9月）4件、第4四半期（10月～12月）3件となっている。火災は火気使用頻度の多い冬から春先にかけて多く、高温、多湿の夏季は比較的火災が少ないのが例年の状況である。

ウ 出火原因

全国的には総出火件数は25,929件（1月から9月まで）で、出火原因は「たばこ」（8.6%）「たき火」（8.4%）「こんろ」（7.9%）「放火」（7.1%）「放火の疑い」（4.5%）となっている。

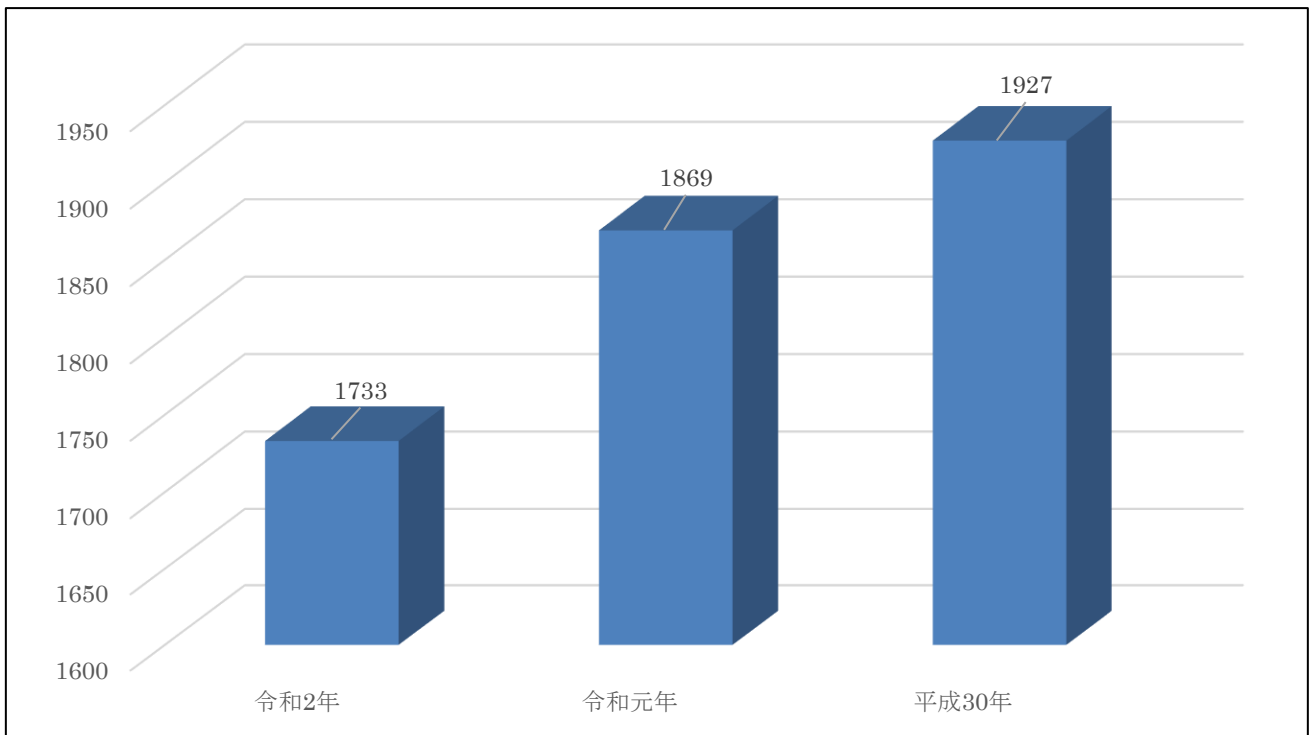
かすみがうら市では「不明」8件「放火・放火の疑い」7件「ストーブ」1件となっている。

2 救急

救急業務は、昭和38年に市町村の消防機関の事務として法制化され、平成3年8月には、プレホスピタル・ケア充実のため、救急隊員の行う救急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行う救急救命士の制度が設けられた。

平成15年4月から、救急救命士が行う処置は順次、拡大され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

過去3年間におけるかすみがうら市内の救急出場件数は下表の通りである。

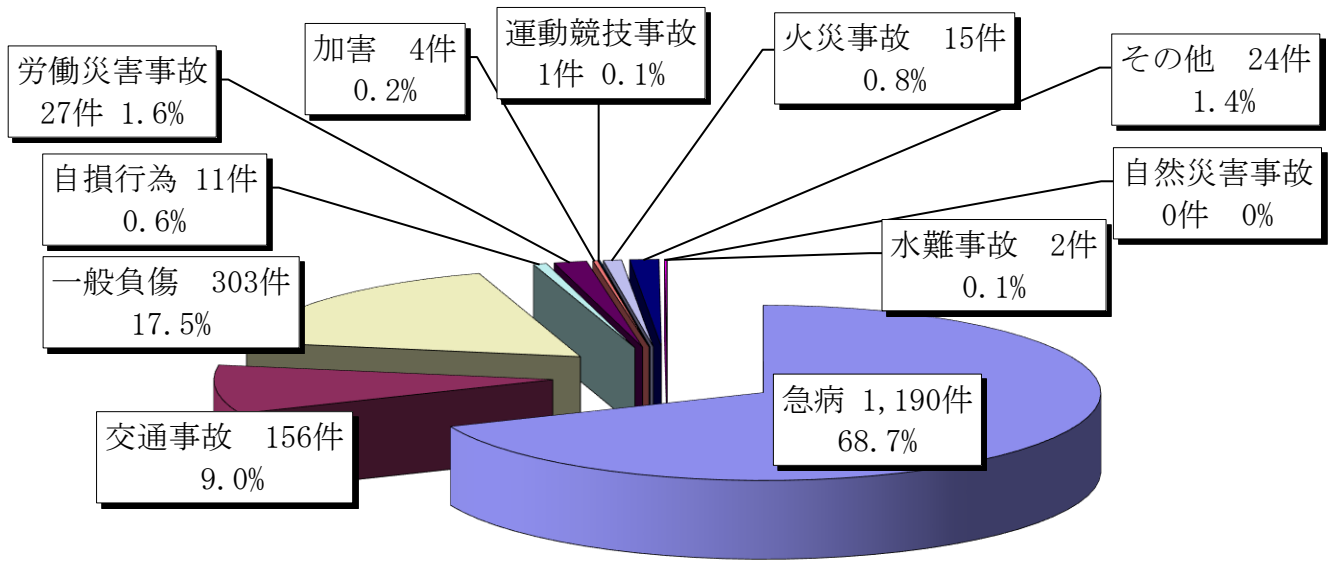


(1) 救急出場件数

令和2年における市内の救急業務実施状況は、救急出場件数1,733件、搬送人員1,622人であり、ともに昨年より100件強減少している。1日平均4.7件の割合で救急隊が出場し、市民の約2.4人に1人が搬送されたことになる。

前年と比較し、救急出場件数及び搬送人員が減少した理由としては、急病の傷病者に対する出場件数が115件の減少、急病の傷病者の搬送人員が118名減少していることから、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、病院へは行きたくない軽症者の救急要請が減少したのではないかと考えられる。

(2) 事故種別出場件数

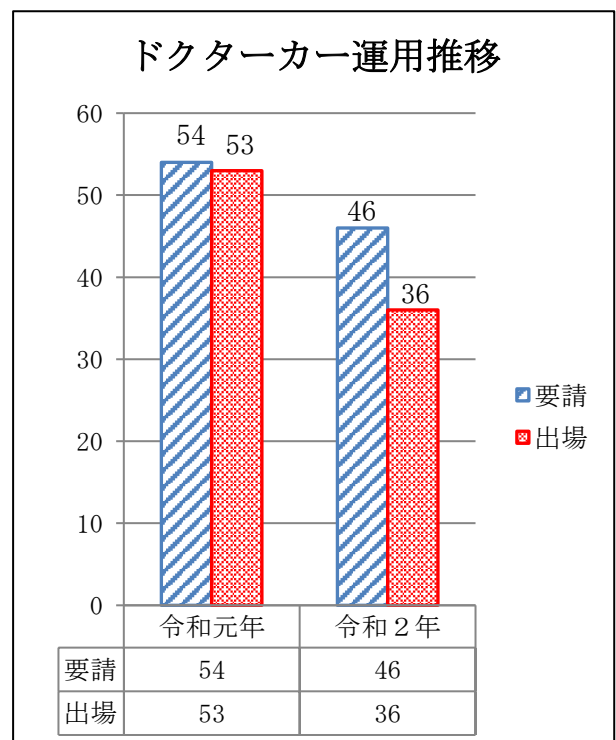
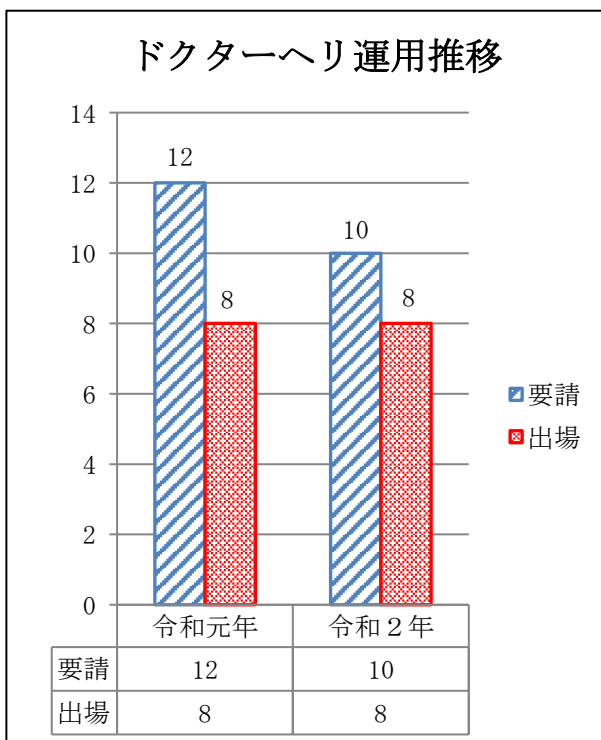


事故種別出場件数をみると、急病が約7割を占め次いで一般負傷、交通事故となっている。

(3) ドクターカー・ドクターヘリ

令和2年茨城県ドクターヘリの出場件数は8件、土浦協同病院ドクターカーの出場件数は36件であった。

令和2年ドクターカー・ドクターヘリの運用推移は下記グラフのとおりである。



(4) 医療機関搬送人員

市 町 村 別	事故種別 病院別	火 災 事 故	自 然 災 害 事 故	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害 事 故	運 動 競 技 事 故	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
土 浦 市	土浦協同病院	2		2	73	21		169	3	5	773	7	1,055
	神立病院				52	4	1	66			100	2	225
	霞ヶ浦医療センター				8			9	1		77		95
	その他の病院				1			5			18		24
石 岡 市	山王台病院				14			9			26	1	50
	石岡第一病院				7			2			6		15
	石岡医師会病院										1		1
	その他の病院							1			1		2
つ く ば 市	筑波メディカルセンター病院				1			2			13		16
	筑波大学附属病院				1			3		1	11		16
	筑波記念病院										7		7
	その他の病院							4			2		6
阿見町	東京医大茨城医療センター				3			5			34		42
	その他の病院												0
笠間市	茨城県立中央病院				1						6		7
小美玉市	石岡循環器科脳神経外科病院				6			10			30		46
水戸市	水戸医療センター				2	1		1			2		6
	水戸済生会病院				2								2
	その他							1			6		7
合 計		2	0	2	171	26	1	287	4	6	1,113	10	1,622

(人)

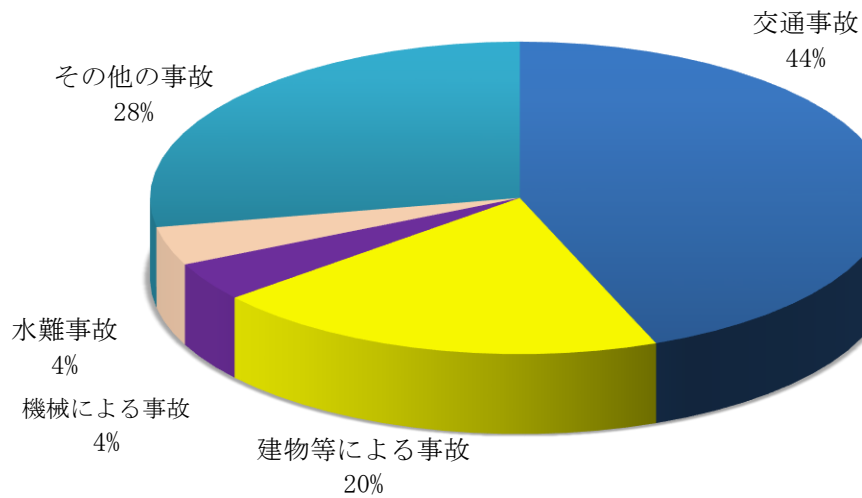
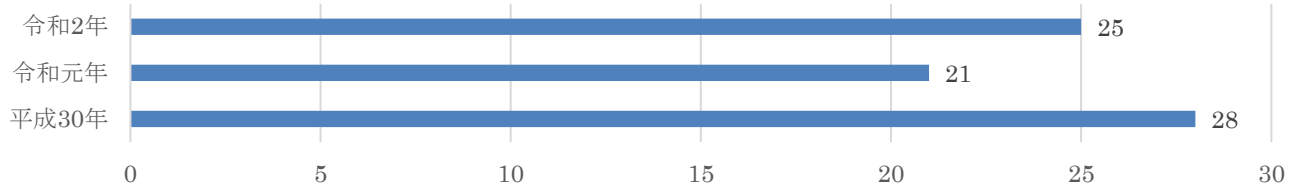
医療機関別に搬送人員をみると、土浦協同病院が最も多く1,055人で次いで神立病院の225人となっている。

また、市町村別医療機関の搬送人員をみると、土浦市内の医療機関への搬送が86%とほぼ大半を占めている。

3 救助

令和2年における当消防本部の救助活動状況は、出場件数25件のうち活動件数は22件、救出した人員は20名でした。前年と比較して出動件数は4件増加している。原因別にみると交通事故による救助件数が最も多く11件、次いでその他の事故となっています。

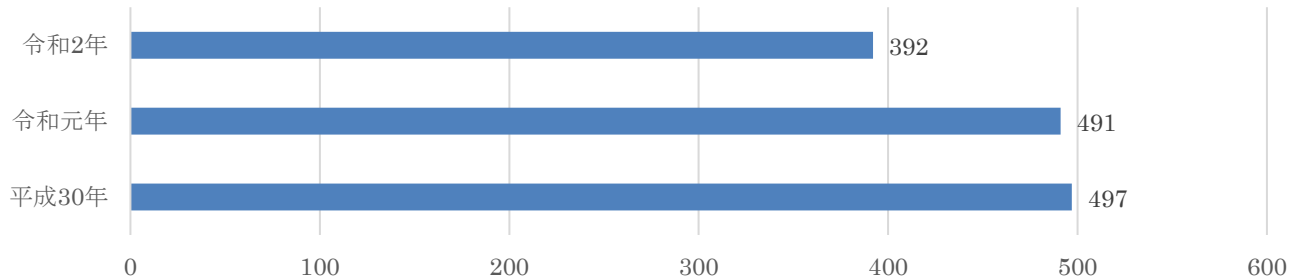
過去3年間救助出場件数



4 その他の出場（PA連携）

ポンプ車と救急車が同時に出場し、傷病者の搬送や救命処置を迅速かつ確実にを行うため、救急隊のみでは対応が困難な事態に備える場合や要請の内容から必要と認められる場合にPA連携として救急活動を行うものです。

PA出場件数



PA連携で出場した件数は救急出場の減少に伴い392件で、前年に比べ99件減少しています。

「救急車を呼んだのに消防車が来た」というように驚かれることもあるかも知れませんが、一人でも多くの人命を救うことを目的に実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の対応について

当市消防本部としまして、令和2年3月に新型コロナウイルス感染症に係る消防本部業務継続計画を策定、令和2年4月にかすみがうら市消防本部感染防止対策要領を改正し、職員に周知し業務を行っております。特に救急業務は、普段から感染防止対策に十分注意しながら活動しております。

令和2年中に1733件の救急出場があり、新型コロナウイルス感染症の疑い傷病者59名を搬送しました。その中で2名の方がPCR検査を実施し、いずれも陰性判定となっております。発熱や呼吸苦症状などがあり感染の疑いを持った場合は土浦保健所に連絡し指示をいただいております。全事例通常救急搬送となっております。感染の疑いで搬送した場合は、感染拡大防止のため、感染防護服、マスクを処分し、救急車内にて資器材等をオゾン消毒及びアルコール消毒を実施しております。

当消防本部の対応としては、茨城県のコロナ対策指針ではStage2に緩和され、県独自の緊急事態宣言が解除された現在でも、県外では感染者が増加していることを考慮すると、どこで感染してしまうかわからない状況であり、対策を緩和することなく今までどおり継続する必要性を感じています。市民の皆様の安全・安心な生活を守るため全職員一丸となって取り組み、信頼されるかすみがうら市消防本部とするため全力を投入してまいります。最後に4月20日より、消防職員医療従事者向け新型コロナワクチン接種が開始されます。